

# 稲・大豆作情報 (NO. 5)

## 1. 水稻作況情報田の生育概況 (7月31日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/17 17.7株/㎡ (平年6/16,18.1)	本 年	78.8	426	11.6	38.0	7月5半旬の平均気温は平年より高く(+0.8℃)、降水量は少なく(26%)、日照時間は平年並みで経過している。 ◇平年と比べ、 草丈：夢しずく、さがびよりは平年並、ヒヨクモチは低い。 茎数：夢しずくは多く、さがびよりはやや少なく、ヒヨクモチは平年並。 主稈出葉数：すべての品種で平年並。 葉色：すべての品種淡い。 ★「夢しずく」は、幼穂長 2～3mmとなっている。
		平 年	76.9	373	11.5	39.5	
		平年比	(102)	(114)	(0.1)	(-1.5)	
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 18.6株/㎡ (平年6/19,17.2)	本 年	63.6	442	12.0	36.1	
		平 年	67.4	486	11.8	40.3	
		平年比	(94)	(91)	(0.2)	(-4.2)	
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	7/2 18.8株/㎡ (平年6/27,18.8)	本 年	40.3	554	11.1	41.4	
		平 年	46.9	561	11.3	42.7	
		平年比	(86)	(99)	(-0.2)	(-1.3)	

注1) 各品種 前作：麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注2) 平年値は、過去10年間(H25～R4)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH24年～R4年の平均値)

### ◆農業試験研究センター米づくり情報5号 7月31日(抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本/㎡	葉 齢 L	葉色 SPAD	概 況 (平年と比較して)
平 年	74.0	416	11.6	38.5			
平年比(差)	100	105	+0.5	+3.2			
6月20日	さがびより	本 年	58.7	463	11.6	36.5	
		平 年	59.4	521	11.2	40.9	
		平年比(差)	99	89	+0.4	-4.4	
6月20日	ヒヨクモチ	本 年	56.0	837	12.7	39.7	
		平 年	59.4	811	12.2	40.4	
		平年比(差)	94	103	+0.5	-0.7	

注1) 耕起概要等は前号参照。

## 2. 水稻管理

梅雨明け後は、多日照・少雨条件で、生育は平年並みまで回復している。  
 今後は、生育ステージに応じた適正な水管理を行う。  
 穂肥についても診断基準に従い、時期を逸しないように施用する。

### ○水管理

- ・「夢しずく」は、すでに幼穂形成期をむかえているため、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を行い、湿润状態を保つ。中干しが十分にできなかった圃場では、断の期間を長めに取り、徐々に地を固めていく。
- ・中晩生種は、中干し時期となっている。実施していない圃場は右表を参考に、軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度まで行う。  
近年、高温・乾燥条件で予想以上に土壌の乾燥が進み、ひび割れ・白乾しているような圃場が見受けられる。天候や風速により中干しの期間は異なってくるので干しすぎないように注意する。
- ・土壌が白乾してしまった圃場は、一気に水を溜めると根の活力が低下し、下葉枯れを助長するため、まず走り水を行い、その後は間断灌水とする。

品種	目標 穂数 本/㎡	有効茎数（中干し時期）	
		50株/坪 (15.2本/㎡)	60株/坪 (18.2本/㎡)
さがびより	370	25本/株	21本/株
ヒヨクモチ	440	29本/株	24本/株

### ○穂肥 ～ 散布時は入水し、湛水状態で施用 ～

夢しずく【平坦部】・・・6月中旬移植では、穂肥施用時期となっている。

幼穂形成始期の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20～22日	1mm	2.0	12.5
	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.5	9.4
	3.6以上	39以上	施用しない			
73～79cm	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.0	6.3
	3.6以上	39以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1mm）を基点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

ヒノヒカリ・・・まもなく、幼穂形成期となり、8月上旬頃に穂肥施用になると思われる。

幼穂形成始期の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20～24日	1～2mm	3.0	18.8
	3.0～3.3	35～38	18～20日	3～5mm	3.0	18.8
	3.5～3.8	39～40	16～18日	5～15mm	2.0	12.5
	3.8以上	41以上	—	15～30mm	1.0以下	6.3以下
80cm以上	3.0～3.3	35～38	18～20日	3～5mm	2.0	12.5
	3.5～3.8	39～40	16～18日	5～15mm	1.5	9.4
	3.8以上	41以上	—	15～30mm	1.0以下	6.3以下

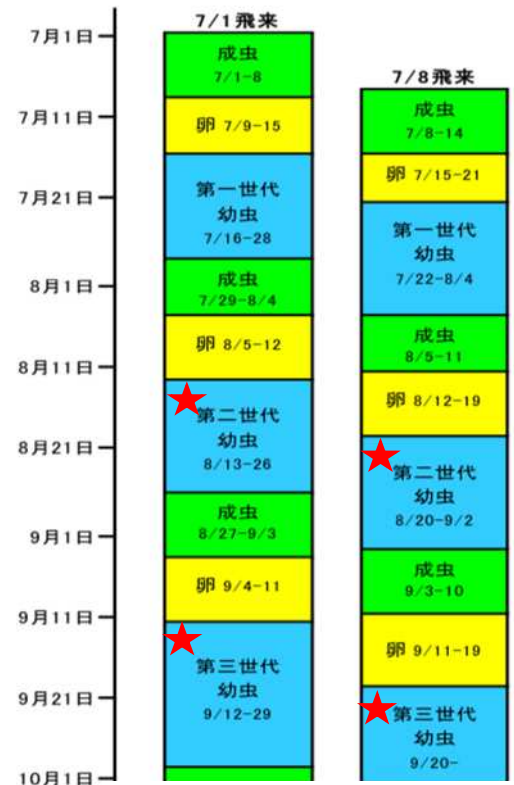
## ○病害虫情報（発生および防除）

・「病害虫発生予察情報予報第4号（7/27発表）」で、8月は以下の予報が出ているため、今後も発生状況に留意し、適切な管理を行う。

### 【トビイロウンカ】・・・やや多

- ・7/28の農業技術防除センターの定期調査では、トビイロウンカは確認されていない（平年並）。
- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっており、移植時期や品種によって、今後急増する場合もあるため、発生状況を注視し、適期適正防除に努める。
- ・防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期（各幼虫期の前半（図中★））である。  
【有効薬剤：オーケストラ・エクシード・エミリア など】
- ・防除する場合は、湛水するとともに薬剤が株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。
- ・発生予測図は、気象をもとに随時更新されるため、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

佐賀県 農業技術防除センター 



トビイロウンカ各世代の発生予測  
（第2版、2023年7月25日作成）

### 【コブノメイガ】・・・やや多

- ・6/15以降、県内のライトトラップで断続的に誘殺されている。
- ・7/31の調査で、成虫の飛来が確認された圃場があった（夢しずく情報㊦）。
- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・止葉を含む上位3葉に被害がでると減収につながるため、圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫ふ化揃い期（発蛾最盛期の7日後）に防除を実施する。

### 【斑点米カメムシ】・・・やや多

- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・耕種的な防除として、畦畔除草を出穂10日前までに行う。  
出穂後の除草は、水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、時期を逸した場合には収穫前まで除草しない。
- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生の多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

草刈りの時期（目安）	斑点米カメムシ類の防除時期
平坦部 6月中旬移植夢しずく ・・・8/7前後まで	◎多発生：「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除 ◎少発生：「乳熟期（出穂の約15日後）」1回防除

### 【紋枯病】・・・やや多

- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・近年、多発傾向にあるため、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂20～10日前を目安とする）に防除を徹底する。



### 3. 大豆管理 ～ 大豆は水分ストレスに弱い作物。乾湿差を最小限にする圃場づくりを ～

梅雨明け後は、猛暑により急速に土壤の乾燥が進むため、暗渠排水の栓を閉めるなどして土壤水分の確保を図る。一方で、局地的な大雨も想定されるため、明渠やうね間、排水溝をつなぎ、スムーズな排水ができるよう整備しておく。

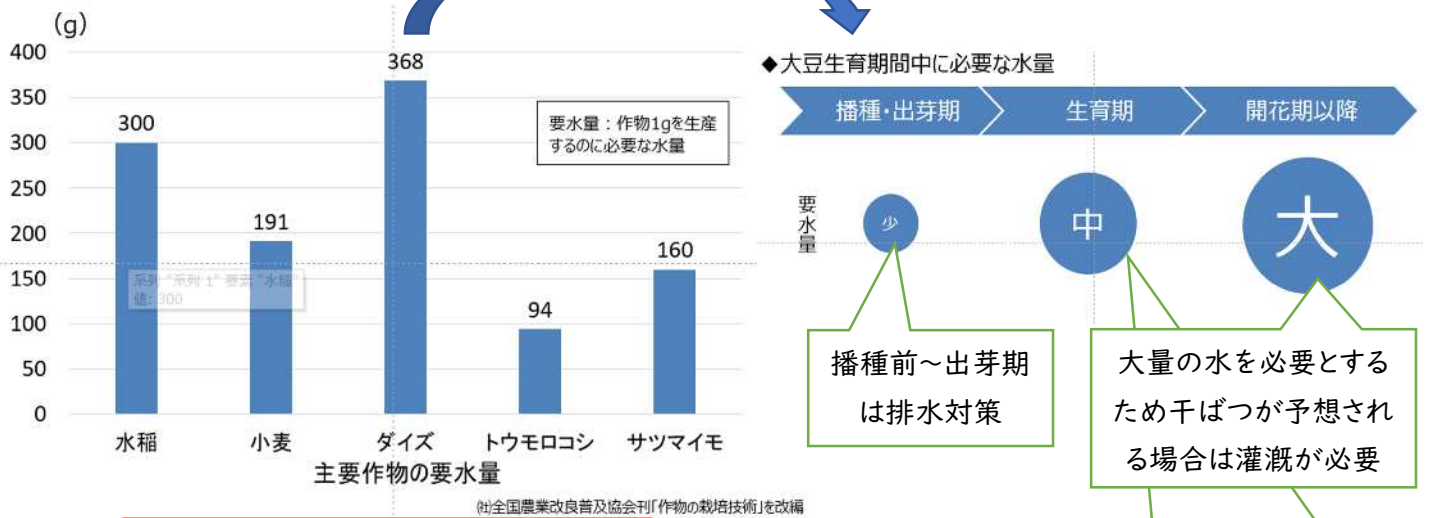
#### ○生育状況

7月15日播種 本葉2～3葉目

7月20日播種 本葉1～2葉目

※同じ播種時期でも、土壤水分の有無や降雨の有無で生育は異なる。

#### ○干ばつ対策



**ダイズの生育にはコメと同じくらいの水が必要**

暗渠排水の栓を閉めるなどして土壤水分を確保

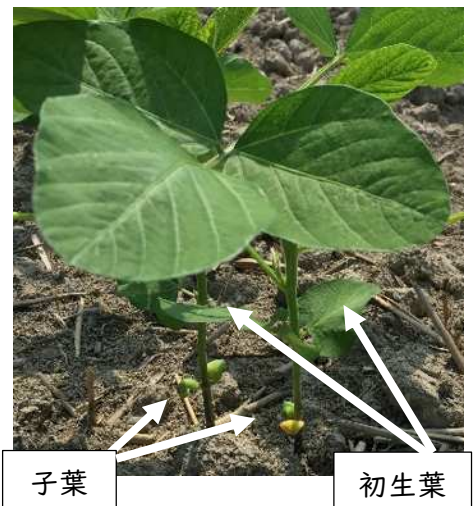
#### ○培土

・出芽した大豆は、以下の目安を参考に、雑草防除や生育確保のため培土を実施する。

#### ○実施時期の目安

- 1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度におこなう。
- 2回目：本葉4～5枚時に、初生葉（子葉の上の葉）まで隠れるようにおこなう。

※今年も7月下旬からは“高温・少雨・干ばつ”傾向で推移している。培土は、大豆栽培のうえで重要な作業の一つであるが、気温が高い日中の作業は、土壤水分の蒸散を助長するため、作業は夕方以降が望ましい。



令和5年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

